

横浜市立西本郷小学校 学校だより

令和4年11月25日(金)

一人ひとりがかがやき、みとめ合い、つたえ合い、たかめ合う西本郷小の子
キャッチフレーズ:あいさついっぱい みんながえがお 西本小

子どものつぶやき 子どもの気持ち

児童支援専任 及川 節子

「早いんですね。先生、もう11月ですよ。」

「そうですね。今年もあと1か月ですね。」

特別支援教室にやってくる子どもと、いつも交わす言葉です。

12月は師走。大人は年末に向けて、身も心も気ぜわしくなる頃です。子どもも「もう11月」と感じるということは、世の中の動きが子どもにも影響を与えているのかも知れません。

特別支援教室で子どもと関わっていると、子どものつぶやきが聞こえます。

「お腹空いたな…。」

「もう分からないよ…。」

などなど。計算をしている最中や、ノートにまとめを書いている最中に、ふと言いたくなるようです。通常、授業中であればなかなか言えないひとことだと思います。

けれども、それが子どもの気持ちなのでしょう。

「今日の給食はカレーよ。頑張ろう。」と励ましたり、「そうですね、ここ難しいのよね。」ともう一度一緒に考えてみたりします。子どもはつぶやいて、また学習に取り組みます。「この気持ち、分かって!」というほどの強い思いはなくとも、気持ちを受け止めてもらえると、なんだかホッとするようです。大人も同じです。

このような子どものつぶやき、大歓迎です。学習中だけど、ついつい言ってしまう、言えるほど安心して学習できているのだととらえます。ですので、大歓迎!

さて、今日はどんなつぶやきが聞こえるでしょうか?

そう言えば、つぶやきではなく、自分の気持ちを強く訴えてくる子どもが、先日いました。これは特別支援教室でのお話ではありませんが、自分の頑張りを「褒めて!認めて!」という気持ちがあふれている様子でした。

「そうよ、すごく頑張ったよ。先生も驚いたよ。ものすごい頑張りだね。」

その子は自信に満ちた笑顔でした。きっとその後の学習や取組も頑張れたのではないのでしょうか。

師走に入ります。とは言え、子どもの気持ちをしっかり受け止められるゆとりはもっていたい、と、深呼吸する今日この頃です。